

2023  
ズバリ! 的中



日本史

# 北海道大学

史料や文章を読み解き、時代背景を理解したうえで、  
蝦夷地に来航した外交使節とその来航地を答える問題が的中

## 入試問題

### 前期日程

3 問3 (1)

3 次の文章ならびに史料1・2を読んで、下記の設問(問1～9)に答えなさい。  
なお、出題の都合上、史料は改めたり省略したりした箇所がある。

系譜や墓誌は、個人の履歴に即して歴史の流れを具体的に追うことができる点で、重要な史料とみなされる。以下の史料1は除奥国会津藩士の系譜であり、史料2は明治政府成立期に右大臣を務めた岩倉具視の墓誌である。

史料1

一、同年(1807年〔文化4〕)十一月、蝦夷地御固<sup>(a)</sup>の仰せを蒙らせられ候につき、御先手<sup>(b)</sup>岩陣ならびに岩番隊差し越され候間、隊下の者召し連れ罷り越し、諸事宜しく取り計らうべき旨、仰せ出され候。  
但し、魯西亜人去年唐太を侵掠<sup>(c)</sup>致し、当年もエトロフへ襲来、かれこれ狼藉<sup>(d)</sup>に及び、公儀衆<sup>(e)</sup>はじめ、南部・津軽御両家の勤番人数<sup>(f)</sup>甚だ不行届の次第どもにて、その内には死傷もこれ有り、又々唐太の内ルウタカへも乱妨致し(中略)通商の願い相叶わず候わば、この上蓋幕に及ぶべき旨申し越し候趣も相聞え、いづれ外寇御手当御油断相成らざる義にこれ有り…(後略)。  
(会津藩「諸士系譜」五十 丹羽織之丞系譜)

注1：因……警備・警固のこと。

注2：先手……本陣の前に配備される先鋒部隊のこと。

注3：公儀衆……(蝦夷地駐在の)幕府役人のこと。

注4：勤番人数……駐屯の軍勢のこと。

⋮

問3 下線部(c)について、「魯西亜人」がこうした「狼藉」に及んだ背景には、次のような経緯があった。1792年(寛政4)に「魯西亜」使節「ア」が通商等を望んで東蝦夷地「イ」へ来航した。その際、漂流民大黒屋光太夫の送還をも名目とした。幕府は和人地で応接し、「ウ」での交渉を認め入港許可証を交付し、漂流民を受け取った。その後1804年に、この入港許可証を携えた「魯西亜」使節「エ」が「ウ」へ来航したが、幕府は通商を認めなかったため、翌年退去を余儀なくされた。

(1) 空欄「ア」～「エ」にあてはまる語句を答えなさい。

(2) 漂流民大黒屋光太夫の送還を認めた「魯西亜」の女性皇帝の名前を答えなさい。

## 河合塾

### 北大入試オープン

20～21頁 3 問8

史料2

我国昔より海外に通問する諸国少からずといへども、事便宜にあらざるか故に、嚴禁を設く。我国の商戸外国に往事をとどめ、外国の買船もまたもやすく我国に来る事を許さず。強て来る海船ありといへども、固く退けていれず。唯唐山・朝鮮・琉球・紅毛の往来する事は互市の利を必とするにあらず。来ることの久しき素より其謂れあるを以なり。其国の如きは昔よりいまだ曾て信を通せし事なし。計らざるに、前年我国漂流の人をいざなひて松前に來りて通商を乞ふ。今又長崎に到り好みを通じ、交易を開かん由を計る。既に其事再におよんで、深く我国に望む所あるも又切なるを知れり。然りといへども望み乞所の通商の事は重く、爰に議すべからざるもの也。我国海外の諸国と通問せざる事既に久し。(中略)互市交易の事なくて只信を通し、あらたに好みを結ぶは素より、又我国の禁ゆるがせになしがたく、ここを以て通する事をせず、朝廷の意かくの如し、再び来る事を費す事なかれ。

(「通航一覽」)

注1 「買船」……商船。

注2 「互市」……貿易のこと。

注3 「前年」……以前のある年。先年。

注4 「朝廷」……天子が政治をおこなう機関。ここでは幕府のこと。

⋮

問8 下線部(e)について、

(1) この時來日した外国使節の名を答えなさい。

(2) (1)の外国使節は、松前で幕府の役人と対面する前年、漂流民をともなって蝦夷地に来航した。その地名を漢字で答えなさい。